

令和7年1月23日

令和7年

第1回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和7年1月23日（木曜日）午後2時から

### 1 出席委員（5名）

小 黒 仁 史	教育長
高 橋 幸 子 委 員	
深 澤 佳 己 委 員	
北 内 英 章 委 員	
藤 井 大 吾 委 員	

### 出席職員（9名）

教育総務部長	今 井 健太郎
教育総務課長	鈴 木 孝 司
教育施設担当課長	小野澤 行 平
副参事（教育地域力担当）	長 岡 誠
学務課長	高 野 恭 子
指導課長	細 田 真 司
学校支援担当課長	鈴 木 啓 介
教育センター所長	早 田 由香吏
大田図書館長	後 藤 清

### 3 日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 部課長の報告事項

~~~~~

(午後 2 時00分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和 7 年第 1 回大田区教育委員会の定例会を開会いたします。

本日は、傍聴希望者がおります。

委員の皆様には傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

なお、本日は三留委員につきましては、あらかじめ本日の欠席の届出がありますので、ご報告いたします。

それでは、大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に北内委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

本日、私からの報告は 1 月 11 日に行われました、梅田小学校の開校七十周年記念の式典についてでございます。

梅田小学校は、昭和 29 年に馬込小学校、馬込第二小学校、池上第二小学校から児童約 500 数十名を迎えて開校いたしました。梅田小学校が開校した当時は、戦後の復興から高度成長へ向かう時期で、馬込地域の人口が大変急増したようでございます。

梅田小学校の開校当時には、馬込小学校には約 1,900 人、それから、馬込第二小学校には約 1,200 人、それから、馬込第三小学校には約 1,300 人こどもたちがいて、大変たくさんの児童が通っていた所です。

梅田小学校は、現在は、大田区内の小学校の中で一番児童数が多い学校になっています。それでも、全校で 950 名を超える程度ですので、当時の梅田小学校の周りの学校がいかに

こどもたちが多かったか、そういう時代であったか、が分かるところです。

式典の中では、開校当時の様々なエピソードについて、こどもたちが語っていました。校庭に沼地のようなものがあった、エビ・カニがたくさん捕れて、こどもたちは休み時間になるとエビ・カニを捕りに行っていたそうです。チャイムが鳴ってもなかなか教室に入ってこなかったのも、エビ・カニを捕るのをやめて帰ってくるようにという学校の決まりがあったようです。

その頃から 70 年間の変遷がありました。式典当日は、6年生が参加していましたが、私立中学校への受験やその準備があったせいか、欠席する児童も少なくなかったと思います。

私を感じたのは、そういうような状況の中で、開校当時と現在とでこどもたちの教育環境も大きく変わってきているということです。

梅田小学校は、現在、タブレットを活用した授業が非常に盛んで、ICTの活用について研究を深めており、その成果を上げているところです。

こどもたちの環境が大きく変わってきている中で、改めて、これからの教育の在り方、何を大事にして、どのように育てていくのかをこどもたちの顔を見ながらしっかりと捉えて、教育を推進していく必要があるのかなと思いました。

いずれにしても、梅田小学校の七十周年は、私が生きてきた時間とちょうど重なるころがございますので、その歴史の流れを思い返しながらか、振り返るものがありました。これからの 70 年を生きるこどもたちへの教育について、今どのようにしていくべきかをしっかりと考えながらやっていきたいというふうに思ったところでございます。

委員の皆様の方でご意見・ご質問がありましたら、お願いいたします。

#### ○高橋委員

1月18日に、第23回ものづくり教育・学習フォーラムに参加しました。今年は、先着順で、ものづくり体験の受け付けチケットが配布されたので、各ブースで、たくさんのこどもたちが体験していました。人気のあるブースは、既に売り切れでしたが、後から来てもチケットが残っているブースがあったので、後から来ても体験できることはいいことだなと思いました。全体的に、整然と体験していて、良かったです。

舞台発表は、各校とも特色が生かされた発表で、おたの未来づくりの学習につなげる発表だったかなと思いました。中学生では、職場体験の発表がありますが、仕事を知るとともに、心の成長・内面的な成長も学習することで、とても有意義な取組だと感じました。

また、スクリーンが少し不鮮明なところと体験ブースの音が大きかったことが少し気になりました。こどもたちの声あまり聞こえないときもあったので、その点が、今後、考えていただきたいと思っております。

技能コンテストでは、木工とソーイングなど、皆さんの創意工夫がすごいと感じました。いろいろな作品が見られて良かったと思っています。

#### ○教育長

ありがとうございました。ほかにもございますでしょうか。

## ○深澤委員

私も、1月18日に大田区産業プラザP i Oで行われた第23回ものづくり教育・学習フォーラムに出席してまいりました。今年の舞台発表を見ていて感じたことは、発表のために用意したスライドの完成度が高かったということです。どの学校もスライドを用いることで発表が分かりやすくなっていました。

羽田小学校は、東京羽田ヴィッキーズという羽田を拠点とする女子バスケットチームの応援CMを作成する過程と、完成したCMを発表していました。そのCMは、構成が優れており、リズム感も良く進んでいったので、引き込まれるような感じで楽しいものでした。作成したこどもたちのセンスの良さもさることながら、ICT教育の成果が、このような所でも表れてくるのだということを感じました。

また、馬込東中学校は、3年生でソーラン節を踊るときに着る法被を自分たちで作成するそうですが、卒業時にその法被を卒業証書に挟み込んで、リユースしているという内容の発表でした。入学時から卒業時まで、法被のデザインや縫製、着用とソーラン節に一貫して取り組むというのがSTEAM教育の一対応であり、教育的な観点からの発案と実行が素晴らしいと思いました。また、それが、今や、馬込東中学校の特徴、個性というようなものにもなっているように感じまして、当校の伝統として引き継がれていくのだろうと思いました。

また、今回は、外部企業と連携して作成したオリジナルアイテムを販売していました。私は、出雲小学校の児童が、海苔をテーマにアイデアを出して、地元のパン屋さんに作ってもらった海苔のマフィンと海苔のパウンドケーキを買いました。和風の海苔と洋風のパンの組み合わせが、とても柔軟な発想だと思いますが、さらに、海苔のマフィンには、具材に海苔とシラスを使って、味付けがケチャップとマヨネーズだったのです。私には、そういう発想は全くありませんので、こどもには、大人にはない斬新な発想があるのだなということを感じました。

午前の部の最後には、ほとんどの商品が完売していました。自分たちが発案して作ったものをお客さんが喜んで買っていってくれるとか、おいしかったよと言ってもらえるというのが、こどもたちにとって成功体験であり、そういう成功体験がものづくりの醍醐味であるとともに、次のステップへつながっていくのではないかと期待をして見ておりました。

## ○北内委員

私も梅田小学校開校七十周年記念式典・祝賀会に出席させていただきました。当日は、晴天に恵まれ、式典には6年生児童が出席し、厳かな雰囲気の中、執り行われました。児童による祝いの言葉では、七十周年記念の歌を作詞し、手話を交えて合唱してくれました。

式典終了後、和太鼓部の児童が、校庭で大空のもと演舞してくれました。力強い太鼓の振動が、透き通った空気を揺らし、やまびこのようにこだまして、辺り一面に響きます。保護者、教職員、地域の方々から大きな拍手が起こりました。

祝賀会は、場所を変えて、大田文化の森で開催されました。オープニングセレモニーとして、近隣校である馬込中学校ソーラン部の生徒が迫力ある演舞を披露し、会を盛り上げてくれました。祝賀会では、あちらこちらのテーブルで、昔話に花を咲かせたようでした。

周年行事は、学校行事の中でとても大切な行事だと思っています。厳かな雰囲気の中での式典は、こどもたちを成長させます。また、式典を通して、児童・生徒一人ひとりが、多くの人に支えられ、地域の一員であることを自覚し、地域への愛着が深まります。

末筆ながら、式典・祝賀会開催にあたり尽力してくださった校長先生はじめ教職員の皆さま、PTA会長及び七十周年委員会委員長、全ての関係者の皆さまに感謝申し上げます。

次に、第23回ものづくり教育・学習フォーラムに出席させていただきました。作品展示では、児童・生徒の力作が展示され、多くの保護者が見入っていました。舞台発表では、各校、日頃の学習成果をまとめ、分野横断的に総合的に探求した結果を立派に発表しました。

一例を挙げると、出雲小学校は、大田区独自教科「おおたの未来づくり」モデルについて発表しました。本区の実業家やベーカリー、飲食店と共同で、海苔マフィン、台風型海苔チーズ in パイ、海苔と岩塩のパウンドケーキ、餃子と海苔、ハッシュドポテトと海苔など発案し、会場で販売もされました。児童たちの発案が商品化され、実際に販売するところまで実施し、こどもたちの達成感、自信になったと思います。

ものづくり競技会では、技術部門（木工）と家庭部門（ソーイング）のそれぞれで、生徒が競い合いました。全員が、制限時間内に完成し、どの作品もアイデアに満ちあふれ精度の高い素晴らしい作品でした。講評の先生からも生徒たちにお褒めの言葉をいただきました。

#### ○藤井委員

今年は、社会的な交流が減っているお正月の休暇の時期が長かったので、正月明けからのインフルエンザ感染症が激減しております。

現在では、ピークのときの半分どころか、3分の1ぐらいまで減っている印象になっています。

一方、コロナ、ノロウイルス、パルボウイルス、伝染性紅斑、アデノウイルスなど、そういったものを含めて多様な感染症が流行していますので、冬の間はやはりマスクはなるべくしていたほうがよろしいかと思えます。しかし、学校内においては、あまり強制するものではございませんが、体調の悪い子に関しては、なるべくマスクの装着をさせてあげるのも一つかと思えます。

それから、大田区では、都内で先駆けて、5歳児健診のモデル事業を行っております。現在、6か所において実施されておりますけれども、5歳児健診というのは、5歳児になりますと社会性が高まって、発達障害が認知されやすい時期であるということを踏まえ、乳幼児の発育・発達や健康の維持、疾病の予防、悩みを抱える保護者などの早期発見や支援、児童虐待の予防、早期発見などの観点から全国展開を目指すこととなっております。

こちらは、令和6年5月31日のこども政策推進会議の「こどもまんなか実行計画2024」での決定でございます。巡回方式と園医方式という二つのやり方がございますが、大田区では園医方式を採っているということです。

まず、一般的な発育状況などのほかに、SDQ（Strength and Difficulties Questionnaire）という「こどもの強さと困難さアンケート」と言いますが、こちらを事前に行うと、困難さについては、情緒、行為、多動、不注意、仲間関係に関する項目が5

項目。また、こどもの強みとして、協調性や共感性などの社会的な行動に関する質問が5項目あります。これらを基にし、点数化して、ピックアップされたケースについて集団2次健診、主に心理士が担当いたしますが、そういったことを行った後に発達相談会に結び付けていくというふうになっております。

就学前に、そのサポート体制を整えて、小学校の低学年からサポートを開始することができるようにというのが狙いであります。子育て相談、また、親に対しての栄養相談、療育相談、心理発達相談、教育相談などを行う必要があります。一連の流れには、保護者の同意を得た上での情報共有も必要となるわけですが、高校生に至るまでの途切れない支援のため、教育委員会としても、将来的に関与が必要になってくる可能性があるというふうに思われます。

#### ○教育長

ありがとうございました。

ほかに、ご意見・ご質問は、よろしいでしょうか。

それでは、次の日程に移ります。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第2は、部課長の報告事項でございます。

#### ○指導課長

私からは、第23回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告についてでございます。平成14年度から開催し、今回で23回目となるものづくり教育・学習フォーラムを令和7年1月18日土曜日に、大田区産業プラザP i Oで開催いたしました。

本フォーラムは、大田区のこどもたちにもものをつくる感性、主体的な態度、工夫・創造する能力の育成等を目的に、資料のとおり、作品展示、舞台発表、ものづくり競技会、ものづくり体験の四つの取組を行うイベントで、様々な団体・企業等から共催・ご協力をいただいております。

開催にあたっては、準備会委員長、大森第八中学校の保谷満校長先生を中心として、委員の校長先生方や先生方に運営の準備を進めていただきました。

また、小学校長会、中学校長会、大田区教育研究会、小学校・中学校のPTAにも、運営のご協力をいただきました。今年度、新たにものづくり体験において、ものづくりマイスター工場板金グループにご協力をいただくことができました。

加えて、令和7年度から、小学校第5・6学年を対象に、全面的に実施する独自教科、「おおたの未来づくり」の取組の発表の場として、東六郷小学校、大森第五小学校、出雲小学校の児童が、外部企業と連携し、作成したオリジナルアイテム等を販売するコーナーを設置し、実際に来場者の方々に向けて販売を行いました。

さらに、小池小学校の児童がデザインしたオリジナルトートバッグを、舞台発表に参加する児童・生徒の参加賞として配布しました。

体験コーナーについては、今年度から運営を業者委託し、延べ788名のこどもたちが、

ものづくり体験をすることができました。アンケートを見ますと、様々な体験や学習を通して子どもたちから「リサイクルすればもっといいものが作れることが分かって、勉強になりました。」「初めてのはんだ付けの体験は、はんだがすぐ溶けて、何でもくっつけることができ気持ち良かったです。」「3Dプリンターの動きを見て、どんなものが出来上がるのか、わくわくして楽しかったです。」などの肯定的な感想が多くあり、参加者にとって充実した内容にすることができたと考えております。

ものづくり競技会では、中学校の代表生徒が、当日の本番に向けてアイデアを練り、練習を積み重ねてきた成果を十分に発揮し、今年度も時間内に全生徒がすてきな作品を完成させることができました。

加えて、東京蒲田ロータリークラブのご厚意で副賞のご支援をいただき、木工部門では、最優秀者賞には3Dプリンター、ソーイング部門の最優秀賞者にミシンを贈呈しました。

来場者数は、昨年度よりも多く、延べ6,333名の皆様にご来場いただきました。

本フォーラムは、ものづくりのまち、大田の教育における一大イベントとなっております。今後は、先ほどの教育委員の方々のご意見・ご感想を参考にするとともに、発表や展示の内容に、おおたの未来づくりで学んだことなど、STEAM教育の視点を取り入れて、さらにブラッシュアップし、参加した子どもたちが、将来、大田区のものづくりに関わったり、支えたりする人材に成長していくことを目指してまいります。

なお、来年度の会場については、大田区産業プラザP i Oが改修工事の予定のため、現在調整中というところでございます。

#### ○教育長

それでは、ただいまの報告に、ご意見・ご質問は、ありますでしょうか。

(「なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは、ほかにご意見・ご質問がないようでしたら、それでは、これをもちまして、令和7年第1回教育委員会定例会を閉会といたします。

(午後2時25分開会)

令和7年 第1回 教育委員会 定例会 1月23日(木) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事（教育施設担当）

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事（教育地域力担当）

副参事（教育施設調整担当）

学務課長

指導課長 第23回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告について

指導企画担当課長

学校支援担当課長

副参事（法務担当）

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和 7 年 1 月 23 日

令和 7 年第 1 回教育委員会定例会日程

日程第 1 教育長の報告事項

日程第 2 部課長の報告事項

# 令和6年度 第23回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告について

教育委員会定例会  
資料  
令和7年1月23日

## 事業の目的

- ものを創る感性、主体的な態度、工夫・創造する能力の育成
- ものづくりの重要性や技能、技術が果たす役割の理解、地域産業の重要性や、ものづくりを支える勤労者を尊敬する態度、望ましい勤労観や職業観の育成
- 技術立国日本、ものづくりのまち大田の将来を支える人材の育成
- ものづくりへの興味・関心、社会・産業の理解の涵養による、地域への愛着の深化

## 実施団体等

- 主催 大田区教育委員会
- 主管 ものづくり教育・学習フォーラム準備会
- 共催 大田区、大田区産業振興協会、大田区立小学校長会、大田区立中学校長会、大田区教育研究会、大田区立小学校PTA連絡協議会、大田区立中学校PTA連絡協議会
- 協力団体・企業等  
おおた少年少女発明クラブ、東京都職業能力開発協会、建住舎、東京都洋裁技能士会、ものづくりマイスター工場板金グループ(新規)、おおたfab、六郷BASE、大田区に昆虫の楽園を作る会、キャリアクリアリング、東京蒲田ロータリークラブ、大田工業連合会、蔵前工業会・くらりか、東京都立城南職業能力開発センター大田校、大田区建築あっせん事業連絡協議会、Science Techno、おおたコマプロジェクト 大森工場協会、(株)ジャノメ、日本赤十字社、東京都立つばさ総合高等学校、東京都立城南特別支援学校、東京都立六郷工科高等学校、東京都立矢口特別支援学校、東京都立品川特別支援学校

## 事業の沿革(経過)

- 平成12・13年度、14・15年度、16・17年度に文部省(文部科学省)「ものづくり学習振興支援事業推進地域」として指定  
平成12年度よりものづくり学習振興協議会の設置・開催
- 平成14年度よりものづくり教育・学習フォーラムの実施  
(過去数年の来場者数 第12回4141名 第13回5515名 第14回7919名 第15回6850名 第16回9646名 第17回7953名 第18回6469名 第19回中止 第20回2191名 第21回4894名 第22回5522名)
- 令和2年度 厚生労働省事業「地域発! いいもの」に選定

## 本年度の事業内容

日時：令和7年1月20日(土) 9:00~16:00

会場：大田区産業プラザPiO 対象：大田区内小中学生、保護者、区民

### ○作品展示 小学校30校(館山さざなみ学校含む)、中学校全28校、特別支援学校3校

◎児童・生徒のものづくり学習の作品や成果のパネル展示と机上展示を実施



### ○大田区小学生科学展 小学校33校

◎東京都小学生科学展向けに出品された大田区立小学校の学校代表作品33点のパネルを展示

### ○舞台発表 小学校9校、中学校5校、高等学校1校、関係団体1団体

- ◎小学校：各教科や総合的な学習の時間、おおたの未来づくりにおけるものづくり学習の体験的な発表
- ◎中学校：職場体験における事業所での製作体験や見学の発表
- ◎東京都立六郷工科高等学校、六郷BASE：ものづくり学習発表



### ○ものづくり競技会 木工部門：中学校11校24名、ソーイング部門：中学校7校13名

- ◎技術分野(木材部門)は「一枚板からの自由作品製作」家庭科分野(ソーイング部門)は、「1mの布からのバッグ製作」をテーマに午前・午後合わせて、約4時間の製作を実施
- ◎講師が審査し、最優秀賞1名、優秀賞2名、技能賞2名、蒲田ロータリークラブ賞2名、敢闘賞を授与



### ○ものづくり体験 15団体による19種類の体験

ミシンを使ったものづくり体験、アルミ缶クラフトづくり体験、3Dプリンタでネームプレート、3Dエコロボット、香り玉ストラップ、椅子づくり、電子工作体験、ギンギンプロペラ、貯金箱作成、下駄作り、機織り体験、おおたコマ組み立て、オリジナルパーツ作り、Ledと光ファイバーでつくる夜空の星、コップギター、簀編みの壁掛け、貝殻アート、紙コプター、種の標本



### ○おおたの未来づくり販売ブース 小学校3校

- ◎東六郷小学校×協力企業：おおたクリエイティブタウンセンター … 「オリジナルボールペン」の販売
- ◎大森第五小学校×協力企業：ハタノ製作所 … ネジの動物「ネジマル」の販売
- ◎出雲小学校×協力企業：守半海苔店など … 「海苔を使った食品」の販売



### ○オリジナルトートバッグ

- ◎小池小学校児童がデザインを担当
- ◎舞台発表参加者への参加賞として提供



## 本年度の成果と課題

(延べ) 来場者数：6333名(うち、体験コーナー参加幼児・児童・生徒：788名)

- 【成果】・全ての事業内容で「ものづくり」に関するテーマで児童・生徒や保護者・地域の方々が、大田区のものづくり産業への興味・関心を高めることができた。
  - ・東京都立特別支援学校3校に展示発表で御協力をいただき、共生社会の実現という視点で、充実させることができた。
  - ・大田区産業振興協会をはじめ、大田工業連合会、大田区立小学校PTA連絡協議会、大田区立中学校PTA連絡協議会等との連携をすすめ、円滑な運営ができた。
  - ・体験コーナーの運営や準備の会場設営等を外部に委託することで、より円滑に運営することができた。
  - ・東京蒲田ロータリークラブから「ものづくり競技会」の各賞に副賞の提供をいただいた。最優秀賞は、木工部門は、3Dプリンタ、ソーイング部門は、ミシンを御提供いただいた。
  - ・小池小学校に依頼し、「舞台発表」の参加児童・生徒に、小池小学校の児童がデザインしたオリジナルトートバッグを配布することができた。
- 【課題】・ものづくり体験に参加する方々が、受付時間開始前に、長時間列に並ぶことに対する配慮を行う。
  - ・会場の確保(令和7年度はPiOが改修工事の予定のため、会場を調整中)